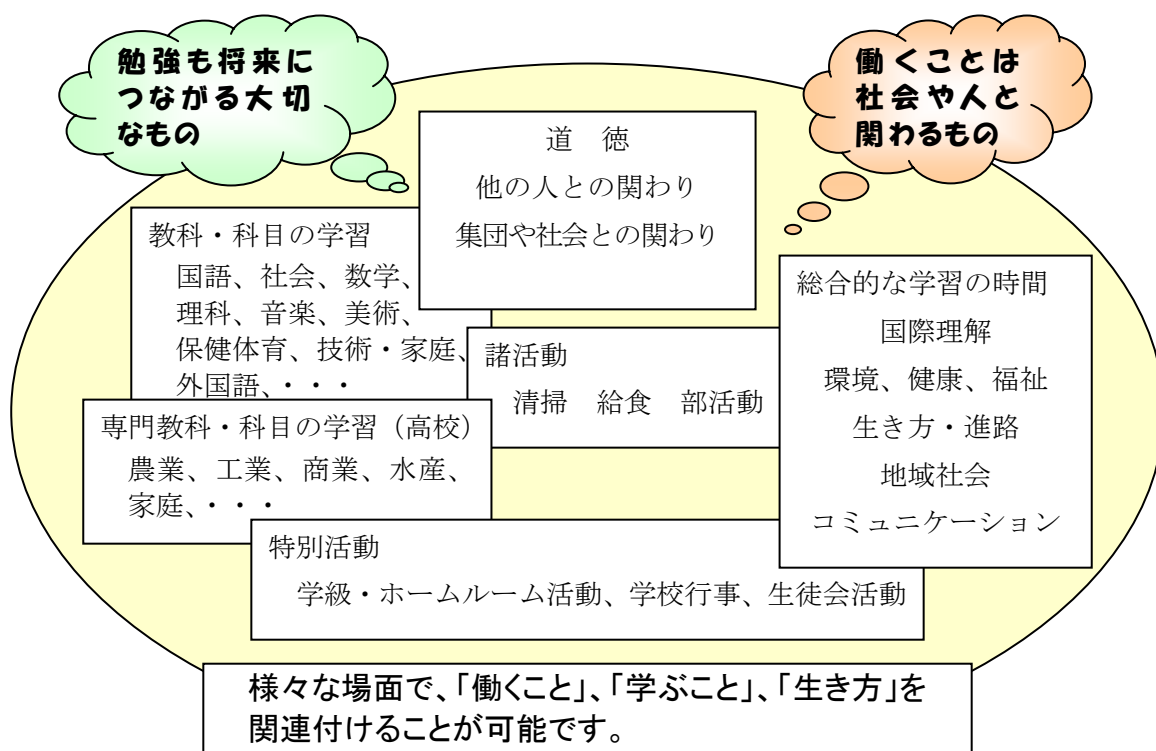


Q1 キャリア教育とはどのようなものか？

A1 小学校段階から、様々な教育活動を通して、一人一人の児童生徒にふさわしい勤労観や職業観を育成しようとする考え方です。

- 学校の教育活動全体がキャリア教育の範囲です。中学校や高校では、進路指導や職業教育を中核にして推進します。
- 様々な教育活動を通して、勤労観や職業観の形成の基礎となる具体的な意欲や態度、能力を育成しようとする視点をもつことが重視されます。

日々の教育活動には、児童生徒に「働くこと」、「学ぶこと」、「生き方」を関連付けて意識させる場面がたくさんあります。学級の係活動や学校の児童会・生徒会の活動にどのように関わるか、あるいは、授業にどのように臨むかといったことまで、キャリア教育の視点でそれらの意義を再確認することが大切です。



事例紹介

ここでは、キャリア教育の視点から日々の教育活動の意義を再確認するために、三つの事例を紹介します。

事例1〔中学校〕生徒会の福祉活動の一環としてボランティア体験を実施

この中学校では、生徒会の福祉委員と希望者が、地域の高齢者福祉施設を訪問して、体験学習を行っています。

■ この活動のねらいは？

- ・この体験を通して、他者理解と同時に自己理解が深まると考えられます。
- ・家庭や地域の一員として、社会的な役割を果たそうとする態度の育成が期待できます。
- ・自分たちにどのようなボランティアができるかを考えたり、アイディアを出したり、工夫して取り組んだりするなど、主体的に課題に取り組もうとする意欲や態度の育成が期待できます。

■ この活動を通して育成された能力や態度は？

体験的な活動からは、指導者側が意図しない成果が得られることも多々あります。次の、「参加した生徒の感想からの抜粋」のように、生徒は福祉施設などで働く人々から、多くのことを学んでいることがうかがえます。この生徒以外にも、体験を通して勤労の意義や働く人々の様々な思いに気付いたり、自己の職業に対する適性に気付いたり、働くことの意義や職業の社会的な役割などに対する理解が深まったりするなど、様々な生徒の反応を読みとることができました。

〔参加した生徒の感想からの抜粋〕

- ・(耳の不自由な方との筆談を通して)私は「ありがとう」という言葉をこんなにうれしく思えたのは本当に久しぶりでした。この何気ない言葉がこんなにうれしい気持ちにさせてくれることを気付かせてくださった方にとっても感謝しています。
- ・(ヘルパーの方の仕事ぶりから)私たちの気付かないところにも気をつかって、しかも素早く対応できるところはさすが経験者だなと感じました。
- ・(福祉の道に興味をもって参加して)ヘルパーの皆さんは、きつとつらいことも悲しいこともたくさんあるのだろうが、お年寄りといるときはいつも笑顔で接している。これも老人ホームでのマナーなのかもしれないと思いました。
- ・(仕事のよろこびを教えられて)あるヘルパーの方が、私たちに向かって「おばあちゃんかわいいでしょ。この笑顔にだまされちゃうのよね。」とうれしそうに話していました。私もこの笑顔にかえられるものはないと思い、心の底からうれしさがこみ上げてきました。

高齢者との関わりから気付くことの他に、働く人々との関わりを通して気付くことについても、生徒の感想の中に数多く見られました。

■ 今後の展開は？

地域の人々とのふれ合い活動を軸に、中学生として自分たちができる活動を考えて実践できる場や機会をつくっていきます。

事例2〔中学校〕給食当番の分担を長期間固定させた取組

この中学校のある学級では、従来は週ごとに交代していた給食当番を、生徒会や学級の委員と同じように、希望者を募って長期間担当させました。

■ この活動のねらいは？

学校や学級などの集団の中には様々な役割があり、それらを誰かが分担しなければなりません。全員に同じ役割を経験させて、責任を果たす意義を感じさせることも必要ですが、生徒一人一人の意欲を生かして集団を活性化することも大切です。必ずしも、生徒の希望だけで役割分担を調整することはできませんが、この事例では、前年どおりの決め方にこだわらず、日常生活における役割の意義をとらえ直すきっかけとしています。

■ この活動を通して育成された能力や態度は？

働くことには、お金を得ることだけでなく、集団や社会に対して貢献したり、ある役割を果たしたりする側面もあります。係活動を長期間担当することで、役割を遂行するためのスキルが高まり、集団の仲間から信頼されるようになります。また、自ら進んで担当した係活動を通して手応えを感じることができると、意欲がさらに高まって、自らの役割の重要性を理解しようとする態度が育まれると考えられます。

事例3〔高等学校〕コース選択のための模擬授業

この高校では、次年度の希望コースで実際にどのような学習をするのか体験するため、各科目の模擬授業を受講させる取組を行っています。

・学習科目のガイダンス、模擬授業（本校教員）・コース別講演会（外部講師）

■ この活動のねらいは？

多くの普通科や総合学科では、2年次以降のコース選択がその後の進路選択に大きく関わります。この事例は、選択しようとするコースや科目で学ぶ内容を実際に体験させるねらいがあります。

■ この活動を通して育成された能力や態度は？

将来の生き方と現在学んでいること、さらにこれから学ぼうとすることを、生徒が具体的に関連付けることができる体験となっています。将来設計をしたり、よりよい選択をしたりする能力や態度の育成が期待できます。

事例から学ぶこと

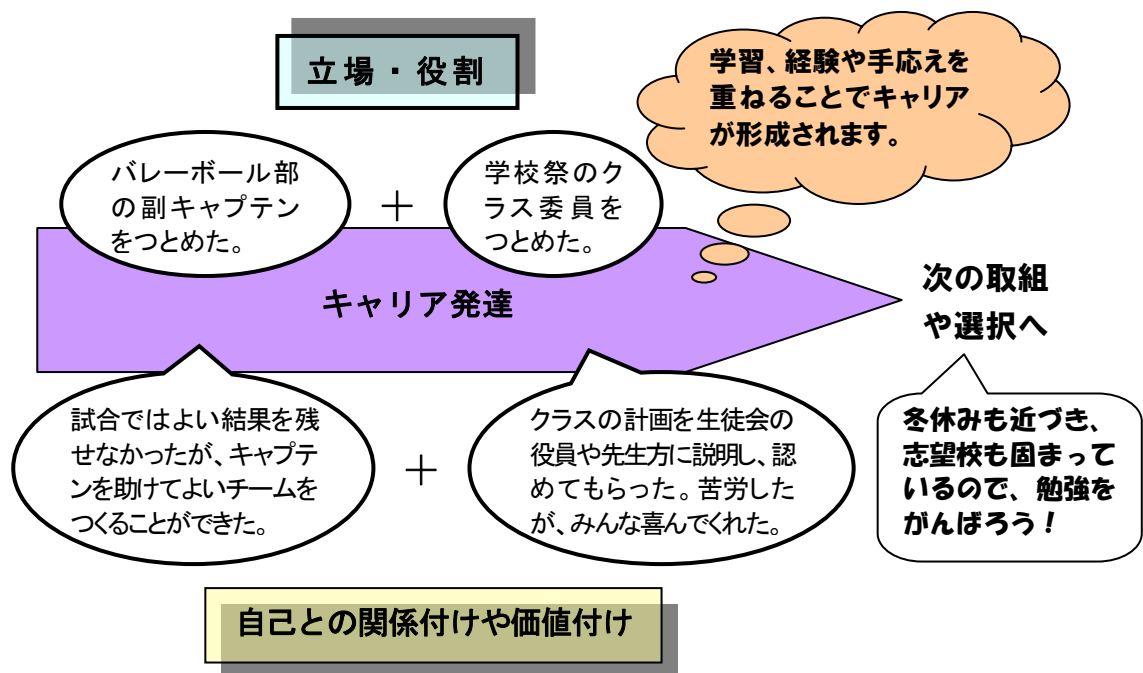
キャリア教育では、生き方や進路選択・決定に関わる能力や態度を幅広くとらえ、様々な機会を生かしてそれらを着実に育成していこうとすることが大切です。

解説1 「キャリア」のとりえ方

キャリア教育では、個々人が成長する過程で経験する立場や役割、周囲のものと人間関係に着目します。「キャリア」とは、個々人がこれまでに累積してきた経験やものの見方、考え方などの全体を指すものです。

キャリアは、自分の生き方や進路を決定しようとするときのよりどころとなる大切なものであり、職業観や勤労観の基盤となるものと考えられます。

イメージ図 キャリア発達のプロセス



◆ キャリア教育はキャリア発達を促すもの ◆

キャリアは、一人一人が成長し、様々な経験を重ねる中で変化していくものです。また、望ましい勤労観や職業観を育成するためには、集団の中で他者と関わりながら、それぞれにふさわしいキャリアが形成されていくことが必要です。小中高の段階は、学ぶ基礎をつくる時期であるとともに、キャリア発達の基盤づくりの大切な時期と考えられます。